

N12a Differences of Magnitude in Star Catalogs II

藤原智子（京都産業大学大学院）

前回の発表で、L.Claudius Ptolemaeusの著書「Almagest」(120年)とAl-Bīrūnīの「Al-Qānūn al-Mas‘ūdī」(1030年)に記されていたAṣ-Ṣūfīの「Suwar al-Kawākib」(986年)を使って、星の明るさの違い(昔は星の大きさの違いだと思われていた)とJohannes Bayerの付けたBayer記号(1603年)とを比較し、現在の実視等級も考慮しながらその変化を辿り、著しい変化のあった星を報告した。

今回は更なる正確さを求める為に、「Suwar al-Kawākib」については大英博物館とベルリンで保存されてきた2つの写本を新たに調べ、これにJohn Flamsteedの「Historia Coelestis」(1725年)、Wilhelm August Argelander「Uranometria Nova」(1843年)の2つの星表を新たに加え、詳細に星の明るさの変化を調べた結果を報告する。そして年代によって著しい明るさの違いが見られた星に関しては、現代分かっている星の情報を用いて、変光の可能性を何処まで説明出来るかを検討してみる。